世論調査報告書
昭和二十六年十月実施

サンマータイムに関する世論調査

総理府
国立世論調査所

昭和二六・一二・八

国立公文書館
National Archives of Japan

はしがき

わが国におけるサンマータイムは、昭和二十三年四月二十八日に「夏時刻法」として制定された。この制度は二十三年度は、法律の公布が四月末だつたため五月の始めから実施された。二十四年度は規定通り四月から始められたが、「四月においては未明寒冷の時刻を余儀なくされるため、実生活上種々の不都合の点がある」との理由で、二十五年三月修正を受け、一カ月繰り下げた五月からはじめられることになつた。現在までに施行以来四カ年を経過したわけである。

サンマータイムを利用することの目的は、アメリカではこれを日光節約時間と呼んでいるように、

(1) 日光を十分利用することによつて国民の健康福祉の増進をはかること

(2) 晝間の時間を活用して電力石炭などの重要資源を節約すること

(3) 夏時刻という特殊な時刻制を用いることによつて、国民の時間観念を心理的に無理なく養つてゆくこと

等が主なる目的である。

しかし国民一般がこの制度に対する経験を重ねてくるに従つて、漸くこれに対する批判の声も高くなつて来た。即ち、終業時刻になつても陽が照つているため、つい労働強化になり、国民保健の増進をはかるという当初の目的は却つてそこなわれるとするものや、天文気象の分野から、グリニッチ常用時とわが国標準時の関係が夏時刻によつて非常な不便を感ずる等の反対論があり、他方電力節約の実績や、十分日光が利用出来るために健康的でよいとの賛成論もあるのが現状であり、政府としては早急にこの制度に対する国民の意見と態度を把握し、国会におけ

583

る検討のための資料を準備することが必要になつて来た。

この報告書は前述の目的のために、内閣総理大臣官房審議室の依頼により、サンマータイム終了後の一カ月内の時期をねらつて全国的におこなわれた「サンマータイムに関する世論調査」の結果を要約したものである。

その具体的な調査項目は次のようなものである。

1. サンマータイムに対する国民一般の態度（賛否）
2. その理由
3. サンマータイムの利用度

調査要領

1. 調査期日　昭和二十六年九月二十八日――十月十五日
2. 地域　全国　六四市町村
3. 対象者　満二〇才以上六〇才未満の日本人男女二、七五一名
4. 抽出方法　都市では配給台帳、郡部では有権者名簿よりランダムに抽出
   層化副次無作為抽出法（但し、第一次抽出単位の抽出は確率比例抽出法による。）
5. 調査方法　全国二七三名の調査員による面接聴取
6. 回収　二、四八五票（回収率九〇・三%）

結果の概要

一、サンマータイムは国民の半数以上の者（五三%）から反対され、不評判である。賛成は三割程度である。

二、サンマータイム反対の態度は相当強いものがある。例えば、如何なる職業、年令層、学歴層にも支持されていない。しかも反対するものは、期間を短縮しても八割までがなお反対であり、全廃をのぞんでいる。

三、しかし反対理由は、漠然とした感情的な答が多い。農村における「生活慣習にぴつたりしない」（二六%）、都会における「疲れてだるい」（一六%）、その他「慣習を人為的に変更されることを好まない」（二二%）等が主なる理由である。

四、賛成する者はわずかであるが、年令層の若い者ほど、学歴の高い者ほど、会務員・公務員などの俸給生活者で、どちらかと言えば国民として意識の高いグループにその傾向がみられる。

賛成の理由は「能率があがる」（二五%）、「余暇が利用できる」（二一%）等が目立つたもので、サンマータイムの眞のねらいである「日光の利用」は一六%、「電力節減になる」の如きは一%にしか過ぎない。

五、賛成者の約七割はサンマータイムを「積極的に利用している」が、反対する者は逆に約六割が「全然利用しない」か、あるいは「利用できなかつた」と答えている。

日本人のサンマータイムの利用度は未だ低く、したがつて日本人の生活にまでなつていないのが現状である。

六、サンマータイムに賛成の者は、八割までが「今まで通り」の期間でよいと答えているが、期間の改正を要望している者は「七月～八月」（二七%）が最も多く、次いで「六月～八月」（二五%）で、合計して両期間が半数以上をしめている。

国立公文書館
National Archives of Japan

質問結果とその分析

一、夏時刻制度に対する賛否

サンマータイムについて二、三お聞きしたいと思います……。
サンマータイムについてどう思いますか。来年もつづけた方がよいと思いますか。それとも、今年でやめた方がよいと思いますか。

やめた方がよい	五三%
続けた方がよい	三〇
あつてもなくてもよい	一五
わからない	二
計	一〇〇%

〔都市・郡部別〕

	やめた方がよい	続けた方がよい	あつてもなくてもよい	わからない
都市	五三%	三四	一二	一
郡部	五三	二八	一六	三

郡部より都市に賛成が多いのは、都市に俸給生活者の多いことと、農村に「あつてもなくてもよい」が多くなつているからである。

〔性別〕

男	六〇%	一二	一
女	四六	一七	三

〔年令別〕

二〇代	四六%	一五	三
三〇代	五六	一三	二
四〇代	五七	一六	一
五〇代	五八	一四	三

年令の若い者ほど支持者が多い。特に二〇代に多いのは余暇を保健やスポーツ、娯楽等に利用しているからである。（利用度参照）

〔職業別〕

農漁業	五三%	一九	二
商工業	五七	一五	一
会社員	五一	七	三
公務員	五二	五	〇
労務者	五一	一五	二

（注）自由業・無職・「その他」は実数不足につき分析し得ず。

支持者は会社員・公務員等の俸給生活者であり、反対は商工業者に多い。その理由は「夜間営業の売上げに影響する」からである。農漁業者に「あつてもなくてもよい」がやや多くなつているのが目につく。

〔学歴別〕

小卒	五三%	二八	一六	三	六
中卒	五二	三五	一二	一	
高専大卒	五三	四〇	六	一	

二、賛否の理由

どうして賛成（反対）ですか。

1. 廃止を希望する理由

農（漁）村生活にぴつたりしないし、つい労働過重になる	二六%
慣習を変更されることを好まない	二二
保健上よくない（疲れてだるい）	一六
生活に無関係	一六
労働條件や民間企業に悪影響	一〇
余暇を悪用する	四
主婦の負担が増大する	三
その他	一
わからない	三
計	一〇一%

（注）一人で二つ以上の理由を答えたものがあるから計は一〇〇%を超す。

○あんまり芳しくない。中止した方が好いと思うね。田の仕事をしていて、お蚕が早いから昔の十一時にもう田から上つて来る。そうすると暑い最中に又仕事を始めることになる。百姓は明るいうちは働くから、どうも蚕からの仕事が長くなつて疲れる。わしらは二重時計は困る。　岩手県・農家の世帯主・三八歳

○暑い時には学校は昔から時間をずらしておつた。実際にはサンマータイムをやつていたわけだ。それでよいじやあないですか。どうもわれわれはものを二重に考えるんですねえ。サンマータイムと元の時間とを区別してですねえ。だからサンマータイムがすつかり生活に入り込んで来ません。習慣を変えることはむずかしいですよ。イギリスなど、太陽の出方が違うところでは必要でしようがねえ、一津にやることは賛成しません。　石川県・教員・四四歳

○絶対反対。北海道なんか絶対必要ないよ。時計を一時間すすめることが不自然だ。時間を早めるなら、出勤時間を早めた方が自然です。南北に長い日本に四月からサンマータイムをやるなんて常識外だ。止めた方がいいよ。　札幌・公務員・二八歳

○別に勤人とちがつて自由労務者にはあれはない方がいいねえ。別にあつてもなくても同じようなもんだから、そんなものはない方がめんどうでなくていいや。やめてしまつた方がいいや。夕方になつて八時間働いたから帰るわけにもいきませんからねえ。まだ早いぞとか、なんとか言われるからたあ。つい疲れてしまう。　東京・労務者・三七歳

○われわれとしては余り有り難くないですなあ。労働時間の延長という点でねえ。時間観念が日本の現状としてはまだすいから、つい日のある間は働いてしまう。結局疲れますなあ。専ら健康上の問題ですねえ。反対です。目的と逆になりますね、効果が。　東京・会社員・三四歳

続行を希望する理由	
労働条件や民間企業に好影響（能率が上る）	二五%
余暇を利用できる	二一
保健上よい	一六

国立公文書館
National Archives of Japan

農（漁）村生活や農業経営上よい　一二
慣習を変更することはよい（自然・便利）　一一
主婦の負担が軽減する　七
生活に無関係　四
電力（石炭）の消費が少くてすむ　一
その他　三
わからない　五
計　一〇五％

○大変結構なことです。ずうつとつづけて下さい。役所から帰つて来てから自分の仕事をしたり、家の手入れなどが出来ます。日の長いうちは、その明るさを利用するのが文化人のすることでしよう。　東京・公務員・三一歳

○うん。来年も続けた方がよいと思いますねえ。能率を上げることが出来ます。朝の爽快な気分が、勤労意欲を高めます。　東京・会社員・五一歳

○とつてもいいと思います。お洗濯などよく乾きますですね。　東京・家庭の主婦・二三歳

○非常にいいですねえ。まあ明日働く活力の補給が出来ることですねえ。夜がのんびり出来るからです。仕事が終つて帰つてから昼ぐらい出来ますから、健康上にもいいですね。　大阪・会社員・三二歳

○良いと思います。能率的ですし、電力の節約にもなります。　熊本県・家庭の主婦・二四歳

○私自身はよいと思います。涼しい時に仕事をやるのは自然のことです。ただ農村などは時間の観念なしに腹時計でやつている。時間を厳守しないのが日本人の悪い欠点で、結局サンマータイムを有効に使つていない。だが、私としては必要だと思つている。効果はうすいが、時間の使い方を教えるだけでもやる必要を認めます。　福島県・公務員・四四歳

○これはサンマータイムのはじまつた頃と、この頃では違つている。始めた時は変つたことを始めたと大反対であつたのだが、馴れて来たので、それに今年は期間も短くなつたので、さほどでもない。やつてみればよいと思いました。　広島県・商業・五〇歳

八

三、希望する実施期間

〔廃止を希望するものに〕今年は五月のはじめから九月のはじめまでやりましたが、期間を短くすればどうでしようか。やはり全然反対ですか。

期間を短くしても反対		七八％
期間を短くすれば賛成	七月―八月（二カ月）	六％
	六月―八月（三カ月）	五
	六月―七月（二カ月）	二
	五月―八月（四カ月）	二
	六月―九月（四カ月）	一
	七月―九月（三カ月）	一
	その他	一
	計	一〇〇％
わからない		四

〔続行を希望するものに〕今年は五月のはじめから九月のはじめまでやりましたが、期日は今まで通りでかまいませんか。それとも、改めた方がよいと思いますか。

九

国立公文書館
National Archives of Japan

今まで通り（五月——九月、五カ月）　八五%
六月——九月（四カ月）　六
六月——八月（三カ月）　二
五月——八月（四カ月）　二
五月——一〇月（六カ月）　一
その他　四
計　一〇〇%

以上、反対者でも期間を短くすれば「賛成的な態度」に変つたものと、賛成者でも期間の短縮を希望するものを綜合すると、次のような結果になつた。

綜合結果

1. サンマータイムの賛否

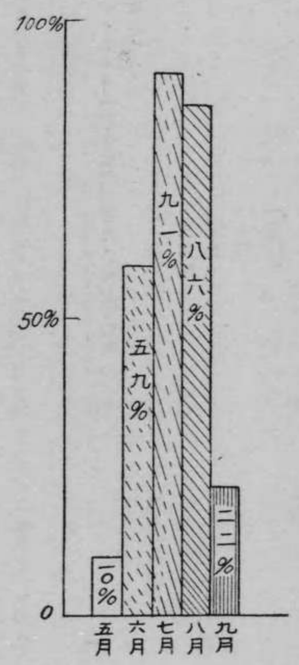
全廃に賛成　四二%
今まで通り続行　二五
期間を短くすれば賛成的な態度のもの　一六
あつてもなくてもよい　一五
わからない　二
計　一〇〇%

2. 希望する実施期間（改正を希望するもののみ）

七月——八月（二カ月）　二七%
六月——八月（三カ月）　二五
六月——九月（四カ月）　一七
五月——八月（四カ月）　一〇
六月——七月（二カ月）　七
七月——九月（三カ月）　五
八月だけ　二
その他　七
計　一〇〇%

3. 以上の結果から希望する期間を月別に分析すると、次のようになる。

即ち、サンマータイムの期間に、七月をふくめたのが最も多く全体の九一%、次いで八月をふくめたもの八六%である。七月、八月が群を抜いて多い。次いで、やや低くなつて、六月をふくめたもの五九%である。五月、九月をサンマータイムの期間にふくめたものはわずかである。特に五月は僅少である。要するに、「改正を希望する」ものは「七月、八月の如く暑い時期に、しかも期間は短く」実施を希望している。



〔廃止を希望するものに〕サンマータイムを全然利用されませんでしたか。それとも、少しは利用されましたか。

全然利用しない	五九%
少しは利用した	三五
わからない	六
計	一〇〇%

〔続行を希望するものに〕主としてどんなことに利用されましたか。

作業量・能率の増大	二四%
家事（菜園、裁縫等）	二二
保健	一二
趣味・娯楽・研究	七
その他	九
利用しない	二七
計	一〇〇%

〔都市・郡部別〕

	都市	郡部
作業量能率	二八%	一八%
家事	二五	一八
保健	一一	一三
趣味娯楽	九	六
その他	六	一一
利用せず	三二	三四

〔性別〕

	男	女
作業量能率	二八%	二二%
家事	一八	二二
保健	一四	一一
趣味娯楽	八	七
その他	六	二
利用せず	二六	二八

〔年令別〕

	二〇代	三〇代	四〇代	五〇代
作業量能率	二二%	二五	二六	二五
家事	一八	二四	二二	二二
保健	一四	一一	二三	一二
趣味娯楽	九	六	七	六
その他	一〇	八	九	六
利用せず	二七	二六	二四	三二

〔職業別〕

	農漁業	商工業	会社員	公務員	労務者
作業量能率	二一%	二八%	一三	一七	二五
家事	一一	二二	二七	三二	二九
保健	一六	一二	九	二	七
趣味娯楽	三	一六	一五	一一	四
その他	一〇	八	九	四	八
利用せず	二九	二六	二六	二二	二七

農漁業者の能率増大と、俸給生活者の趣味・娯楽に利用しているのが、群を抜いて多いのが目立つている。

〔学歴別〕

小卒	二五%	二〇	一三	九五	一九	二八
中卒	二四	二二	九	九	一〇	二六
高専大卒	一五	一六	二一	二六	一	二二

参考

サンマータイムの世論調査は調査時期によつて意見の相違があるが、現在までに民間で実施した世論調査の主なものを参考に資する。本年度に行われたこの調査をみても反対意見が多くなつている。

朝日新聞社

昭和二十五年二月実施
全国調査
対象者 三、五〇〇名・回収 三〇八一（八八%）

「あなたはサンマータイムをどう思いますか。」

	二十五年度朝日	二十六年度当調査所
あつた方がよい	三七%	（三〇%）
ない方がよい	二四	（五三 ）
あつてもなくてもよい	三一	（一五 ）
わからない	八	（ 二 ）
計	一〇〇%	（一〇〇%）

一年前の朝日新聞の調査では賛成が多くなつているが本年度は逆に反対が多くなつている。これは昨年度において「あつてもなくてもよい」と態度保留をした者が、本年度では「反対」に移行したからである。注目すべきことである。サンマータイムに対する日本人の態度が次第に明確になつて来ているのがわかる。

新聞世論調査連盟

昭和二十六年五月実施
全国調査
対象者 三、〇〇〇名・回収 二九三二（九八%）

1. 「あなたはサンマータイムをどう思われますか。」

やめた方がよい	四六・七%
今のようで続けた方がよい	二〇・八
期間を短くして続けたらよい	一一・八
どちらでもよい	二〇・七
計	一〇〇%

2. 〔期間を短くして続けたらよいというものに〕
いつからいつまでがよいですか。

七月～八月（二カ月）	四六・八％
六月～八月（三カ月）	四五・四％
六月～九月（四カ月）	四・九％
その他	二・九％
計	一〇〇％

毎日新聞社

昭和二十六年六月実施
全国調査
対象者　三、五六四名・回収　三、一四八（八五・六％）

夏時間（サンマータイム）をどう思いますか。

賛成	二一・四％
反対	六〇・七％
その他	一・六％
どちらでもよい	一三・五％
わからない	二・五％
無回答	〇・三％
計	一〇〇％

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan